

梅鶯仏教壮年会報

第177号
2022年
7月17日

7月例会

期日：7月31日（日）

時刻5時～6時

プログラム

お勤め

法話

『浄土真宗のみ教え』

《自在の救い》

仏教讃歌斉唱

※コロナ感染対策をして実施します。

たとえ九十九人は欺き得ても、
「あとの一人」は欺き得ない。
「あとの一人」―それは誰？
「神」や「仏」がその一人。
宗教生活とは、
そうした生活―。

寺川幽響先生

（質問）「現代人は理性的に聞こうとする」ということは私自身にも重なります。

いう一文不知で無学の方とおられ、本山から来られた布教使の方には「おやじ覚悟は良いか」と聞かれたといひます。

事をたえ無学でも後生の一大事は本心に無心な方だとつくづく本当に幸せな方だとつくづく

く思います。

理性的に考えすぎて、根本的に如来様の本願が見えてない

の法蔵を知るといっても後世

を知らざるを愚者とす（どれだけの命の行先を知らない人は愚かな人である）とあり

ます。ただし、「理性」とは辞書

に「道理によつて物事を判断する心の働き。論理的、概念的

的に、思考する能力」とあるようには、理性的であることと自己

は人として大事なことだと思

行き先までも理性で解決しようとするのだと思います。そのことをすべて見抜いた上での「まかせよ、たのめよ」との阿弥陀様の呼び声があることに気付きたいものです。

（質問）仏花で華瓶（ケビヨウ）のお供えするのには、神

（さかき）でもよろしいで

神という字は神と木を組み

合わせた字である通り神棚に供える木とされ、お内仏には供えません。

その他に仏華に用いない花

として「刺がある樹の花」

や「臭い臭いがする花や苦く

辛みのある花とむくげ」など

もお供えは控えます。

ただし、仏華や蠟燭などの

荘嚴は、仏さまに捧げるとい

うことよりも、私達の方が、

荘嚴することによって、仏さ

まの知恵と慈悲のはたらきを

受けとめ悦ぶためのものだ

という基本が大切だと思いま

す。

題材法話

前号からのつづき

桜散る 梅に 椿落つ 牡丹崩れて 舞うは菊なり 花の散り方にも様々 あつて、それ日本語の豊かさ、それは、人の最もうな表現が用いられる期、散り方には、死はけれども、死にけりなく、様々なく、悲しく散るよう亡くなることも、天寿を全うし、亡くなる方も、



死にゆく人もあること
○死に際と往生の問題

命を終えた人として、阿彌陀様のご本願によつて、間違ひなく浄土に生まれ、仏と成らさせて頂きます。その阿彌陀様の、大慈大悲に、報謝するの、大慈大悲に、報謝する彌陀仏のお念仏を称え、それが浄土真宗です。それ、けれど死に際におい、て、報恩のお念仏も口に、みつき、執着しながら、死んでいく、執着しながら、往生できるの、浄土に、か？

と、年齢を重ねてく、うのも、気になつ、す。○親鸞聖人御遺



は問題になりました。信心が定まりました。本願を疑う心がないので、正定聚（浄土に往生する仲間）の位に定まつて、いるのです。方々を問うことは無い、という、ことを明らかに示して下さっているの、です。これが絶対他力の南無阿彌陀仏の世界なので、私には、私がお念仏を称え、浄土に生まれる、とい、う、の、世界であらば、私がお念仏を称え、と、が、念仏を称え、こ、ら、そこ、で、終、わ、つ、て、し、ま、い、ま、す。○第十八願の、の、お、念、仏、の、世、界、の、お、念、仏、を、お、念、す、べ、く、阿、彌、陀、の、



仲間入りが定まつておれば、すべし。阿彌陀様に任せ、おの、け、ば、い、い、う、こ、と、な、の、で、す。○恵信尼文書

また、親鸞聖人の奥様である、恵信尼さまも、娘の、覚、信、尼、さ、ま、の、手紙の中、で、一、臨、終、が、ど、の、よ、う、な、も、の、あ、つ、た、と、し、て、も、聖、人、の、浄、土、往、生、は、疑、い、な、く、あ、り、ま、せ、ん、と、書、か、れ、て、い、ま、す。○親鸞聖人の臨終につ

いて、御伝鈔で、一、も、つ、ぱ、ら、は、御、名、を、傳、へ、ま、す、が、臨、終、に、お、き、つ、て、い、ま、す。○終、に、立、ち、あ、は、れ、た、娘、の、臨、終、に、お、き、つ、て、い、ま、す。○覚、信、尼、さ、ま、の、奥、様、の、手紙、に、お、き、つ、て、い、ま、す。○手紙、に、お、き、つ、て、い、ま、す。○返、事、が、こ、の、手紙、に、お、き、つ、て、い、ま、す。○と、推、測、さ、れ、ま、す。○つ、も、落、ち、て、も、し、ぼ、ん、で、い、て、も、構、わ、な、い、が、み、